

## 水産用医薬品再評価調査事業\*

竹内 照文・服部 未夏

### 目 的

養殖魚の細菌性疾病の治療には多くの水産用医薬品が使用されているが、これらの使用に対しては対象魚種が指定され、使用上のネックになっている。そこで、使用対象魚種を拡大するための資料として、魚種と水産用医薬品の組み合わせにより投与試験を実施し、水産用医薬品の魚体内における残留期間について調査を行う。

なお、本事業は(社)日本水産資源保護協会からの委託事業であり、本年度はカンパチとフロルフェニコールの組み合わせで試験を実施した。

### 方 法

試験は目良湾内の当场海面試験生簀(3×3×3 m)で飼育中のカンパチ1才魚140尾(平均魚体重1,200 g)を用いて、1997年8月6日から2週間予備飼育した後、同月20日から開始した。フロルフェニコール(商品名アクアフェン:フロルフェニコール25mg/g含有)は常用最高投与量の2倍量を配合飼料に添着して5日間投与し、その後、通常飼育(1日1回飽食給餌)し、以下の設定で試料を採取

した。

医薬品投与開始1日前	8月20日
医薬品投与期間終了1日後	8月26日
休業期間終了1日前	8月29日
休業期間終了日	8月30日
休業期間終了1日後	8月31日

なお、各時期毎にカンパチを5尾ずつ取り上げ、分析用試料として筋肉のみ各50 gずつ採取し、日本冷凍食品検査協会にて薬剤の残留について分析した(高速液体クロマトグラフ法)。

### 結 果

期間中の水温は27.0~28.4℃で、当湾における最高水温時であった。カンパチは魚体重の約1.2%の割合で投餌したが、予備飼育期間中から摂餌が活発で斃死もなくほぼ健康な状況で試験された。

薬剤の残留は表1に示したが、医薬品の投与期間終了1日後に0.08~0.31(平均0.21) ppmの範囲で検出されたが、その他のサンプリングでは検出されず、フロルフェニコールで設定されている通常の休業期間で薬剤の残留は認められなかった。

\* 水産用医薬品再評価調査事業費による。

表1 試 験 結 果

採捕時期	No.	魚体重 (g)	フロルフェニコール (ppm)
医薬品投与開始1日前 (8月20日)	1	1,080	検出せず
	2	1,250	〃
	3	1,650	〃
	4	1,450	〃
	5	1,700	〃
医薬品投与期間終了1日後 (8月26日)	1	1,700	0.08
	2	1,825	0.31
	3	1,210	0.14
	4	1,350	0.25
	5	1,140	0.26
休業期間終了1日後 (8月29日)	1	1,310	検出せず
	2	1,460	〃
	3	1,450	〃
	4	1,040	〃
	5	1,250	〃
休業期間終了日 (8月30日)	1	1,070	検出せず
	2	1,450	〃
	3	1,410	〃
	4	1,360	〃
	5	1,170	〃
休業期間終了1日後 (8月31日)	1	1,030	検出せず
	2	1,450	〃
	3	1,040	〃
	4	1,320	〃
	5	1,230	〃

\*フロルフェニコールは試料10g中の値である。